

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 9 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520397

研究課題名(和文) 20世紀中葉のイラン文学におけるエロティシズム研究

研究課題名(英文) Eroticisim in Modern Persian Literature in the Middle 20th Century

研究代表者

藤元 優子 (Fujimoto, Yuko)

大阪大学・言語文化研究科(研究院)・教授

研究者番号：40152590

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、イランにおいて1940年代から60年代にジェンダー規範の重要な転換が起こった事を、現代文学におけるエロティシズムの検証を通して論考しようとするものである。3年間に計4回の研究会と国際ワークショップを開催したほか、イラン研究学会でも複数の発表を行い、最終的な成果は、大阪大学の紀要『イラン研究』の特集に纏められた。本研究によって、ジェンダー・バイアスに縛られつつも、セクシュアリティの新たな表現を通して現代人の本質に迫ろうとした文学者たちの葛藤とその成果が示され、20世紀中葉の文学が、イランにおけるジェンダー認識の変動と模索の時代の特色を示す指標となり得ることが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：This research project aims to investigate the important change of gender model which took place in the mid-20th Century Iran by examining erotic expressions in modern literature. The project members developed their discussion through 4 meetings and an international workshop together with the presentations at the conferences of Iranian Studies. The research results are collected in the special issue of "Iran Kenkyu," a bulletin of Osaka University, which contains 8 articles of this project. The main discussion of these articles is on the conflict between sexual discourse over gender convention, and they successfully prove the literary works of this period to bear witness to the changing gender recognition in Iran.

研究分野：イラン現代文学

キーワード：現代文学 イラン ジェンダー 20世紀 国際研究者交流 国際情報交換

1. 研究開始当初の背景

(1)研究代表者は、1990年代以降の女性作家の研究を進める中で、イラン現代文学におけるジェンダー表象への通史的な知識と、ジェンダー認識の変化についての緻密な考察が必要であることを痛感してきた。

(2)イランにおけるジェンダー認識の変化を観察する指標として、1940年代から60年代のイラン文学界に注目すべきであることは、主要な作家、詩人に関する個別の研究から十分想定された。西欧化の進展に伴い、それまで抑圧され、様式化されていたエロティックな欲望や行為への言及が、具体性を帯びて表現されるようになるという大きな変化が起こってきたからである。

(3)2009年にイラン現代詩研究者のアーベディーシャル氏が大阪大学特任准教授となり、緊密な共同研究が可能となった。そこで、協議の上、同氏を研究分担者とし、1940年代からの30年間をジェンダー規範の重要な転換点であることを想定し、小説と詩を両輪に据えた共同研究に着手することにした。

2. 研究の目的

本研究では、大衆文学も含めた小説と詩に現れたエロティシズムの検証を通して、このジェンダー規範の変化過程を多角的に分析し、最終的にイラン社会のジェンダー構造の特色の一端を明らかにすることを目的とした。また、イラン現代文学の国内における研究は、質量共に不足しているため、研究者を結集した共同研究を行うことで、研究の基盤を整え、裾野を広げる事も重視した。

3. 研究の方法

本研究では、1940年代から60年代のイラン文学作品のうちから、小説と詩の二ジャンルに分けて、以下の研究を行っていった。

(1)先行研究を整理して、分析の枠組みについて共通認識を持つ。その後、各研究者が対象とする作家、詩人、またはその作品を選定する。

(2)各研究対象に関して、恋愛、性愛、性的欲望など、エロティシズムに関連する表象の抽出を行う。

(3)同時代の文化的、社会的背景およびジェンダー状況を、歴史的資料を用いて確認する。

(4)年に2, 3回研究会を開き、研究者間の意見交換を行う。また、小説と詩というジャンルによって差異が存在するのか、あるとすればその原因と特徴は何かについて、共同で研究する。

(5)イランに出張し、イラン人研究者との意

見交換を行う。また、最終年度には、外国から複数の研究者を招いてワークショップを開催する。その後、研究成果を論文等の形で発表する。

4. 研究成果

(1)エロティシズムに関する西欧における研究史を顧み、その定義がペルシア文学に応用できるかに関して、先行研究を題材に検討した結果、キリスト教の原罪の意識が、イラン世界には存在しないため、応用は困難である、という見解が生まれた。だが一方で、イスラームに存在する罪の概念が、西欧化志向の現代文学者の作品にも色濃く観察できる点も指摘され、今後の研究課題となった。

(2)本研究が当初目指した目的のうち：

小説と詩に現れたエロティシズムの検証：各研究者が担当した文学者や作品について、その特色の把握に成功したと考えている。

ジェンダー規範の多角的分析：20世紀前半の現代文学黎明期の男性中心主義の文学の中にも、積極的に愛を求める女性の存在が描かれている例が論じられ、当時既にジェンダー規範が動揺し始めていたことを示していると考えられる。20世紀中葉の特色としては、男性作家による屈折した女性観に対し、女性詩人フォルグ・ファッロフザードが歌い上げたエロティシズムが、イラン現代文学のみならず、イラン社会にもたらした衝撃の大きさが、様々な角度から検証された。また、同時代に、読者層の広がりと呼応して現れた大衆文学には、欧米のジェンダー規範の影響が色濃い作品が少なくないことも確認された。当初予想した通り、この時代こそ、伝統的なジェンダー・バイアスと自由なセクシュアリティ表出への希求が混在した、変動と模索の時代であったのである。

しかしながら、最終目的であるイランにおけるジェンダー構造の特色の考察は、非常に大きなテーマであり、本研究課題がカバーできるのは微少な部分に過ぎない。研究の積み重ねには、研究の裾野をより一層広げる必要があり、国外の研究者のみならず、異分野の研究者との共同研究も検討していかなくてはならないであろう。

(3)研究代表者は、短編小説集の翻訳1点と小説の紹介書1点(共著)を出版し、広く一般読者にイラン現代小説の紹介を行った。とくに前者は、毎日新聞(2014年5月18日)とじゃかるた新聞(2014年7月23日)の書評や産経新聞大阪版夕刊(2014年12月26日)にも取り上げられ、国内外に情報が発信された。また、研究分担者は、本研究期間内にイランで3冊のイラン現代詩に関する研究書を上梓した。

(4)研究協力者からは、国内のイラン研究者の多くが参加して毎年年度末に開催されて

いるイラン研究会において、2013年に4名、2014年と2015年に各1名が研究発表を行った。

(5) 2014年11月には、ドイツと米国から研究者2名を招聘し、2日間にわたってワークショップを行った。古典文学から現代文学、演劇までの広範な作品を対象に、7本の研究発表がペルシア語と英語で行われた。このワークショップは、来聴自由とし、来聴者も参加して、活発な議論が行われた。

(6) 研究期間の3年間に、計4回の研究会を実施し、本研究に参加した、大学院生2名を含む延べ11名の研究者が研究発表と意見交換を行った。本研究課題には、イラン人の研究者2名が参加しており、研究会ではペルシア語で議論を行ってきた。中でも、研究分担者であるアーベディーシャール大阪大学特任准教授は、本国における研究の状況や、現代文学全般に関する広範な知識を、日本人研究者に惜しみなく提供してくれた。イラン現代文学研究が未だ発展期にある日本において、このような機会を得たことは、今後の研究の進展に大きく寄与するものである。

(7) 研究代表者は2012年と2013年に、研究分担者は毎年、夏にイランに出張し、資料収集と研究打合せを行った。収集したペルシア語書籍は112点上り、今後の現代文学研究に資するコレクションとなった。

(8) 研究の最終的な成果は、大阪大学大学院言語文化研究科言語社会専攻(専攻語・ペルシア語)の紀要『イラン研究』第11号の特集として発表した。掲載された論文6点、研究ノート2点のうちには、研究協力者によるペルシア語論文(下記雑誌論文)や、英語による論文(同)と研究ノート(同)が含まれ、他の3名のイラン人研究者のペルシア語論文と共に、本研究の成果を国際的にも発信する一助となっている。

(9) 本研究課題について、上記のワークショップに参加したペルシア文学研究の世界的権威の一人であるジャラルール・ハーレギー・モトラグ教授(ハンブルク大学)は、世界的にもユニークな研究であるとコメントされた。ジェンダー研究は、イラン本国では政治的、宗教的拘束によりほぼ不可能であるし、国外でもこのような文学におけるエロティシズムに特化した共同研究の例はないからである。また、もう一人のワークショップ参加者であるファルザーネ・ミーラーニー教授(ヴァージニア大学)からも、日本でイラン現代文学とジェンダー研究が進んできている事を評価し、今後の研究協力を積極的に行う意向が示された。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計18件)

ABEDI Kamyar、Forugh Farrokhzad: Tan kamegi, 'eshq va mazhab (フォルグ・ファッロフザード - エロティシズム、愛、宗教 -)、イラン研究、査読有、11、2015、48 - 55。

KOHANSAL Maryam、"Shahrazad dar "Shab-e hezar-o-yekom" az Bahram Beyzayi (パフラーム・ベイザーイー作『第千一夜』におけるシャフルザード)、イラン研究、査読有、11、2015、76 - 92。

徳原 靖浩、アフマド・マフムード『隣人たち』の語りの戦略、イラン研究、査読有、11、2015、48 - 58。

中村 菜穂、Padideh-ye dokhtar-e 'asheq dar "Seh tablo-e Maryam" - e Mirzadeh-ye 'Eshqi (ミールザーデ・エシユギー「マルヤム三幕劇」における<恋する乙女>の現れ)、イラン研究、査読有、11、2015、17 - 27。

KHALEGHI MOTLAGH, Djalal, Towsihfha-ye jensi dar Shahnameh(王書におけるエロティックな表現)、イラン研究、査読有、11、2015、9 - 16。

マルクス・竹下 キンガ、Love, Death and Desire in the Fiction of Sadeq Chubak with the Focus on *The Patient Stone* (サーデグ・チューバク作品における愛・死・欲望 - 『忍石』を中心に -)、イラン研究、査読有、11、2015、28 - 47。

石井 啓一郎、Notes on a Psychosexual Analysis of Characters in Sadeq Hedayat 's Works; Eroticism as a Critical Lens (サーデグ・ヘダーヤト作中人物たちの性心理分析への試論 - 批評の基準としてのエロティシズム -)、イラン研究、査読有、11、2015、93 - 106。

鈴木 珠里、F.ファッロフザード書簡集『初めての愛の鼓動』における一考察、イラン研究、査読有、11、107 - 150。

藤元 優子、ジャラルール・アーレ=アフマド著「姉さんとクモ: 翻訳と解説、イラン研究、査読有、10、2014、153 - 178。

ABEDI Kamyar、Tondar Kiya: shureshgar-e bi-ashti (妥協なき反逆者トンダル・キヤー)、Jahan-e Kitab、8-10、2013、16 - 19。

藤元 優子、饒舌な情人たち - アリー・ダシュティーの中・短編小説に関する一考察 - 、イラン研究、査読有、9、86 - 116。

ABEDI Kamyar、Khoshunat dar she 'r-e mo 'aser-e Iran (イラン現代詩における暴力)、イラン研究、査読有、9、2013、1 - 14。

[学会発表](計6件)

中村 菜穂、スィーミン・ベフバハーニ

- 回想と批評 -、イラン研究会、2015年3月29日、東京外国語大学。

中村 菜穂、魅惑する都市 - 詩人ナードル・ナードルプールのテヘラン -、イラン研究会、2014年3月29日、大東文化大学。

マルクス・竹下 キンガ、サーデグ・チューバクのフィクションにおける愛、死、欲望 (英語)、イラン研究会、2013年3月31日、大阪大学。

徳原 靖浩、アフマド・マフムードの『隣人たち』について、イラン研究会、2013年3月31日、大阪大学。

〔図書〕(計5件)

藤元 優子(編訳)、段々社、天空の家、2014、235。

上田 洋子、中村 菜穂、藤元 優子 他、テン・ブックス、いま、世界で読まれている105冊、2013、76-79。

ABEDI Kamyar、Sales Pub.、Rahnavard-e Gomshodeh: Zendeji va She'r-e Hasan Honarmandi (迷子の航海者: ハサン・ホナルマンディーの生涯と詩)、2013、260。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

藤元 優子 (FUJIMOTO, Yuko)
大阪大学・言語文化研究科・教授
研究者番号: 40152590

(2) 研究分担者

アーベディーシャーレ カームヤール
(ABEDISHAL, Kamyar)
大阪大学・言語文化研究科・特任准教授
研究者番号: 30573018

(3) 研究協力者

石井 啓一郎 (ISHII, Keiichiro)
所属なし

北原 圭一 (KITAHARA, Keiichi)
明治大学・非常勤講師

コハンサーレ マルヤム (KOHANSAL, Maryam)
東京外国語大学・特定外国語主任教員
(平成25年度より研究協力者)

鈴木 珠里 (SUZUKI, Shuri)
大東文化大学・非常勤講師

徳原 靖浩 (TOKUHARA, Yasuhiro)
公益財団法人東洋文庫・研究員
研究者番号: 80612358

中村 菜穂 (NAKAMURA, Naho)
大東文化大学・非常勤講師

前田 君江 (MAEDA Kimie)
東京大学・非常勤講師

マルクス・竹下 キンガ (MARKUS TAKESHITA, Kinga)
所属なし